

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-77792

(P 2 0 0 2 - 7 7 7 9 2 A)

(43) 公開日 平成14年3月15日 (2002. 3. 15)

(51) Int. Cl.

識別記号

H04N 5/7826

G11B 20/10

20/12

H04N 5/92

F I

G11B 20/10

20/12

H04N 5/782

5/92

テ-コ-ド (参考)

5C018

5C053

D 5D044

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全15頁)

(21) 出願番号 特願2000-262063 (P 2000-262063)

(22) 出願日 平成12年8月31日 (2000. 8. 31)

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 佐藤 守彦

東京都品川区北品川6丁目7番35号 (ソニ

株式会社内

(74) 代理人 100082131

弁理士 稲本 義雄

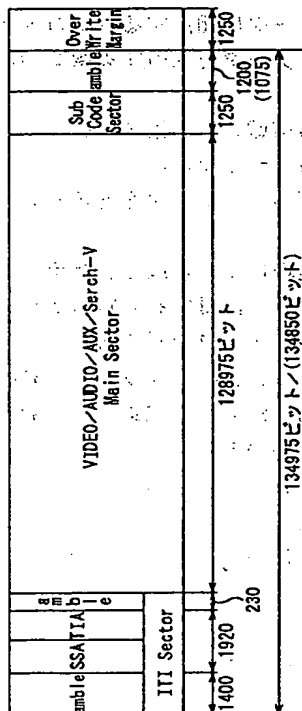
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 磁気テープ記録装置および方法、磁気テープのフォーマット、並びに記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 高品位の映像データを磁気テープに記録できるようにする。

【解決手段】 磁気テープの長手方向に傾斜して形成される各トラックの先頭にITIセクタを形成し、その次に、メインセクタとサブコードセクタを形成する。サブコードセクタの次には、ポストアンブルが形成される。メインセクタには、高品位の映像データ、音声データ、AUXデータ、または、サーチ用の映像データなどが記録される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 磁気テープ上のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置において、

前記高品位の映像データを圧縮する圧縮手段と、

前記圧縮手段により圧縮された前記映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得手段と、

前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得手段と、

前記トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得手段と、

前記第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成手段と、

前記合成手段により合成されたデータを前記磁気テープ上のトラックに記録する記録手段とを備えることを特徴とする磁気テープ記録装置。

【請求項2】 前記圧縮手段は、MP@HLまたはMP@H-14方式で前記高品位の映像データを圧縮することを特徴とする請求項1に記載の磁気テープ記録装置。

【請求項3】 磁気テープ上のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置の磁気テープ記録方法において、

前記高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、

前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得ステップと、

前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得ステップと、

前記トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得ステップと、

前記第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成ステップと、

前記合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする磁気テープ記録方法。

【請求項4】 磁気テープ上のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置を制御するプログラムにおいて、

前記高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、

前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得ステップと、

前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得ステ

ップと、

前記トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得ステップと、

前記第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成ステップと、

前記合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【請求項5】 磁気テープ上の第1のトラックまたは第2のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置において、

前記高品位の映像データを圧縮する圧縮手段と、

前記圧縮手段により圧縮された前記映像データを含む第1のグループデータ、並びに、前記第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得手段と、

前記圧縮手段により圧縮された前記映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、前記映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、前記第2のトラックに関する情報

を含む第5のグループデータ、並びに、前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得手段と、

前記第1の取得手段により取得された前記第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成手段と、

前記第2の取得手段により取得された前記第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成手段と、

前記第1の合成手段により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第1のトラックに記録するとともに、前記第2の合成手段により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第2のトラックに記録する記録手段とを備えることを特徴とする磁気テープ記録装置。

【請求項6】 前記圧縮手段は、MP@HLまたはMP@H-14方式で前記高品位の映像データを圧縮することを特徴とする請求項5に記載の磁気テープ記録装置。

【請求項7】 前記第2の合成手段は、前記第3乃至第6のグループデータにおいて、それぞれのデータ間にギャップを形成することを特徴とする請求項5に記載の磁気テープ記録装置。

【請求項8】 磁気テープ上の第1のトラックまたは第2のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置の磁気テープ記録方法において、

前記高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データを含む第1のグループデータ、並びに、前記第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得ステップと、

前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、前記映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、前記第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得ステップと、前記第1の取得ステップの処理により取得された前記第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成ステップと、前記第2の取得ステップの処理により取得された前記第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成ステップと、前記第1の合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第1のトラックに記録するとともに、前記第2の合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第2のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする磁気テープ記録方法。

【請求項9】 磁気テープ上の第1のトラックまたは第2のトラックに、高品位の映像データをデジタル的に記録する磁気テープ記録装置を制御するプログラムにおいて、前記高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データを含む第1のグループデータ、並びに、前記第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得ステップと、前記圧縮ステップの処理により圧縮された前記映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、前記映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、前記第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得ステップと、前記第1の取得ステップの処理により取得された前記第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成ステップと、前記第2の取得ステップの処理により取得された前記第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成ステップと、前記第1の合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第1のトラックに記録するとともに、前記第2の合成ステップの処理により合成されたデータを前記磁気テープ上の前記第2のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【請求項10】 デジタルデータがトラックに記録された磁気テープのフォーマットにおいて、圧縮された高品位の映像データ、音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータ、前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータ、並びに、前記トラックに関する情報を含む第3のグループデータが、前記トラック上において、連続して記録されていることを特徴とする磁気テープのフォーマット。

【請求項11】 デジタルデータが第1のトラックまたは第2のトラックに記録された磁気テープのフォーマットにおいて、圧縮された高品位の映像データを含む第1のグループデータ、および、前記第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータが、前記第1のトラック上において、連続して記録されているとともに、前記映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、前記映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、前記第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、前記第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータが、前記第2のトラック上において、離間して記録されていることを特徴とする磁気テープのフォーマット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、磁気テープ記録装置および方法、磁気テープのフォーマット、並びに記録媒体に関し、特に、高品位の映像データを磁気テープに記録できるようにした磁気テープ記録装置および方法、磁気テープのフォーマット、並びに記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】最近、圧縮技術が進み、映像データなども、例えば、DV (Digital Video) 方式により圧縮され、磁気テープに記録されるようになってきた。そのためのフォーマットが、民生用デジタルビデオテープレコーダ (以下、民生用DVTR (Digital Video Tape Recorder) と記載する) のDVフォーマット、あるいは、業務用DVTRのDVCAMフォーマットとして規定されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】民生用のDVフォーマットや業務用のDVCAMフォーマットでは、映像データの圧縮率が5分の1または6分の1であり、高品位の映像データ (以下、HD (High-Definition) データと記載する) を長時間記録することができなかった。

【0004】そこで、最近、圧縮率の高いMPEG (Moving Picture Expert Group) 方式のMP@HL (Main Profile High Level) やMP@H-14 (MP High-1440) などの方式で圧縮して磁気テープ上に記録することが提案されている。

【0005】この様なデータ量の多いHDデータを記録す

るためには、高転送レートが必要である。しかしながら、MP@HLに対する映像レートを考慮すると、民生用のMPEGフォーマットや業務用のMPEGフォーマットで磁気テープ上に記録する場合、転送レートが容量不足になる課題があった。

【0006】本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、HDデータを、民生用のMPEGフォーマットおよび業務用のMPEGフォーマットで記録することができるようにするものである。

【0007】 10

【課題を解決するための手段】本発明の第1の磁気テープ記録装置は、高品位の映像データを圧縮する圧縮手段と、圧縮手段により圧縮された映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得手段と、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得手段と、トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得手段と、第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成手段と、合成手段により合成されたデータを磁気テープ上のトラックに記録する記録手段とを備えることを特徴とする。

【0008】圧縮手段は、MP@HLまたはMP@HL-14方式で高品位の映像データを圧縮するようにすることができる。

【0009】本発明の第1の磁気テープ記録方法は、高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得ステップと、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得ステップと、トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得ステップと、第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成ステップと、合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする。

【0010】本発明の第1の記録媒体に記録されているプログラムは、高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データと、それに対応する音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータを取得する第1の取得ステップと、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータを取得する第2の取得ステップと、トラックに関する情報を含む第3のグループデータを取得する第3の取得ステップと、第1乃至第3のグループデータを連続するように合成する合成ステップと、合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする。

【0011】本発明の第1の磁気テープ記録装置は、第1の磁気テープ記録方法、および第1の記録媒体に記録されているプログラムにおいては、第1乃至第3のグループデータが連続するように合成され、磁気テープに記録される。

【0012】本発明の第2の磁気テープ記録装置は、高品位の映像データを圧縮する圧縮手段と、圧縮手段により圧縮された映像データを含む第1のグループデータ、並びに、第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得手段と、圧縮手段により圧縮された映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得手段と、第1の取得手段により取得された第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成手段と、第2の取得手段により取得された第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成手段と、第1の合成手段により合成されたデータを磁気テープ上の第1のトラックに記録するとともに、第2の合成手段により合成されたデータを磁気テープ上の第2のトラックに記録する記録手段とを備えることを特徴とする。

【0013】圧縮手段は、MP@HLまたはMP@HL-14方式で高品位の映像データを圧縮するようにすることができる。

【0014】第2の合成手段は、第3乃至第6のグループデータにおいて、それぞれのデータ間にギャップを形成するようにすることができる。

【0015】本発明の第2の磁気テープ記録方法は、高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データを含む第1のグループデータ、並びに、第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得ステップと、第1の取得ステップの処理により取得された第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成ステップと、第2の取得ステップの処理により取得された第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成ステップと、第1の合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上の第1のトラックに記録するとともに、第2の合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上の第2のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする。

【0016】本発明の第2の記録媒体に記録されているプログラムは、高品位の映像データを圧縮する圧縮ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データを含む第1のグループデータ、並びに、第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータを取得する第1の取得ステップと、圧縮ステップの処理により圧縮された映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータを取得する第2の取得ステップと、第1の取得ステップの処理により取得された第1および第2のグループデータを連続するように合成する第1の合成ステップと、第2の取得ステップの処理により取得された第3乃至第6のグループデータを合成する第2の合成ステップと、第1の合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上の第1のトラックに記録するとともに、第2の合成ステップの処理により合成されたデータを磁気テープ上の第2のトラックに記録する記録ステップとを含むことを特徴とする。

【0017】本発明の第2の磁気テープ記録装置、第2の磁気テープ記録方法、および第2の記録媒体に記録されているプログラムにおいては、第1および第2のグループデータが連続するように合成され、磁気テープ上の第1のトラックに記録されるとともに、第3乃至第6のグループデータが合成され、磁気テープ上の第2のトラックに記録される。

【0018】本発明の第1の磁気テープのフォーマットは、圧縮された高品位の映像データ、音声データ、サーチデータ、または付加データを含む第1のグループデータ、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第2のグループデータ、並びに、トラックに関する情報を含む第3のグループデータが、トラック上において、連続して記録されていることを特徴とする。

【0019】本発明の第1の磁気テープのフォーマットにおいては、第1乃至第3のグループデータが連続して記録されている。

【0020】本発明の第2の磁気テープのフォーマットは、圧縮された高品位の映像データを含む第1のグループデータ、および、第1のトラックに関する情報を含む第2のグループデータが、第1のトラック上において、連続して記録されているとともに、映像データに対応する音声データを含む第3のグループデータ、映像データに対応する付加データまたはサーチデータを含む第4のグループデータ、第2のトラックに関する情報を含む第5のグループデータ、並びに、第1のグループデータに関連するサブコードデータを含む第6のグループデータが、第2のトラック上において、離間して記録されていることを特徴とする。

【0021】本発明の第2の磁気テープのフォーマットにおいては、第1および第2のグループデータが連続して第1のトラックに記録されているとともに、第3乃至第6のグループデータが離間して第2のトラックに記録されている。

【0022】

【発明の実施の形態】図1は、本発明を適用した磁気テープ記録装置の構成例を表している。映像データ圧縮部1は、入力されたHD映像信号を、MP@HLあるいはMP@H-14などのMPEG方式で圧縮する（以下、MPEG方式で圧縮されたHDデータをHD-MPEGデータと称する）。音声データ圧縮部2は、HD映像信号に対応する音声信号を、例えば、DVフォーマットの音声圧縮方式に対応する方式で圧縮する。端子3には、AUX（補助）データや、サブコードデータなどで構成されるシステムデータが、コントローラ14から入力される。

【0023】スイッチ4は、コントローラ14により制御され、映像データ圧縮部1の出力、音声データ圧縮部2の出力、または端子3から供給されるシステムデータを、所定のタイミングで適宜選択し、誤り符号ID付加部5に供給する。誤り符号ID付加部5は、入力されたデータに、誤り検出訂正符号やIDを付加したり、1/6トラックの間でのインタリーブ処理を施し、2/4-2/5変換部6に出力する。2/4-2/5変換部6は、トラッキング用のパイロット信号の成分が強くなるように選ばれた冗長な1ビットを付加することで、入力された2/4ビット単位のデータを、2/5ビット単位のデータに変換する。

【0024】シンクITI発生部7は、後述するデータ（図4または図7）またはサブコード（図5）に付加するシンクデータ、アンプルのデータ、並びに、ITIのデータを発生する。

【0025】スイッチ8は、コントローラ14により制御され、2/4-2/5変換部6の出力またはシンクITI発生部7の出力の一方を選択し、変調部9に出力する。変調部9は、スイッチ8を介して入力されたデータを、1または0が連続するのを防止するためにランダム化するとともに、磁気テープ21に記録するのに適した方式（DVフォーマットにおける場合と同一の方式）で変調し、パラレルシリアル（P/S）変換部10に供給する。

【0026】パラレルシリアル変換部10は、入力されたデータを、パラレルデータからシリアルデータに変換する。増幅器11は、パラレルシリアル変換部10より入力されたデータを増幅し、回転ドラム12に取り付けられ、回転される回転ヘッド13に供給し、磁気テープ21に記録させる。

【0027】コントローラ14は、磁気ディスク31、光ディスク32、光磁気ディスク33、または、半導体メモリ34が装着されると、そこに記録されているAUXデータやサブコードデータなどのシステムデータを読み出し、端子3に出力する。

【0028】図2(A)は、磁気テープ21に、回転ヘッド13により形成されるトラックのMPEGフォーマットを表している。回転ヘッド13は、図中右下から、左上方向に、磁気テープ21をトレースすることで、磁気テープ21の長手方向に対して傾斜したトラックを形成する。磁気テープ21は、図中、右から左方向に移送（走行）される。

【0029】図2(B)は、回転ドラム12が1回転する場合に、回転ヘッド13によりデータが記録される様子を示している。同図に示されるように、10 μ m幅のメイントラックパターン、および、8 μ m幅のサブトラックパターンが同時に記録（形成）される。この回転ヘッド13の構成は、後述する。

【0030】民生用のMPEGフォーマットの場合、10 μ m幅のトラックと8 μ m幅のトラックには、同じHD MPEGデータが記録され、1トラック当りの転送レートは、DVフォーマットに準拠する。

【0031】一方、業務用のMPEGフォーマットの場合、10 μ m幅と8 μ m幅のトラックには、異なるHD MPEGデータが記録される。これは、磁気テープ21上における編集機能を目的としたフォーマットであるため、1トラック内の各セクタ間にはギャップが形成される。なお、業務用のMPEGフォーマットの1トラック当りの転送レートは、民生用のMPEGフォーマットと同様に、DVフォーマットに準拠する。

【0032】図3は、民生用のMPEGフォーマットで、磁気テープ21に形成される1トラックの構成例を表わしている。なお、HD MPEGデータは、24→25変換されて記録されており、同図に示す数字のビット数は、24→25変換された後の数値を表わしている。

【0033】1トラックの長さとは、磁気テープ21の174度の巻き付け角に対応する範囲とされる。この1トラックの範囲の外には、1250ビットの長さのオーバーライトマージン(Over Write Margin)が形成されている。このオーバーライトマージンは、データの消し残りを防止するものである。

【0034】1トラックの長さは、 $60 \times 1000 / 1001$ Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、134975ビットとされ、60 Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、1348500ビットとされる。

【0035】この1トラックには、回転ヘッド13のトレース方向（図2において、左から右方向）に、サーボ制御信号としてのITIセクタ、メインセクタ、および、サブコードセクタが、それぞれ順次配置される。

【0036】ITI (Insert and Track Information) セクタは、3550ビットの長さとなされ、その先頭には、クロックを生成するための1400ビットのプリアンブルが配置され、その次には、1920ビット分の長さのSSA (Start Sync Area) とTIA (Track Information Area)

a) が設けられている。SSAには、TIAを検出するために必要なビット列（シンク番号）が配置されている。TIAには、民生用のMPEGフォーマットであることを示す情報、SPモードまたはLPモードであることを示す情報、フレームのパイロット信号のパターンを示す情報などが記録されている。TIAの次には、230ビットのポストアンブルが配置されている。

【0037】以上のITIセクタのデータは、シンクITI発生部7により発生される。

【0038】ITIセクタの230ビットのポストアンブルの次には、128975ビットの長さのメインセクタが配置されている。メインセクタには、映像データ(VIDEO)、音声データ(AUDIO)、AUXデータ(AUX)に、または、Serch用の映像データ(Serch-V)が記録されている。このメインセクタの構造は、後述する。

【0039】メインセクタの次には、1250ビットのサブコードセクタが配置されている。サブコードセクタには、トラックナンバやタイムコードナンバなどが記録されている。このサブコードセクタの構造は、後述する。

【0040】サブコードセクタの次には、ポストアンブルが配置される。ポストアンブルには、クロックを生成するのに必要なデータが記録されている。このポストアンブルの長さは、回転ヘッド13の回転が $60 \times 1000 / 1001$ Hzの周波数に同期する場合、1200ビットとされ、60 Hzに同期する場合、1075ビットとされる。

【0041】上述した1400ビットのプリアンブルと1200ビットのポストアンブルは、PLLの引き込み時間、メカ精度のばらつき、またはテープスキュなどに対する各対策としてマージンをとることを目的とする。

【0042】なお、民生用のMPEGフォーマットにおいては、磁気テープ21上の編集に対応しないことを特徴とするものであり、基本的にセクタ間のエディットギャップが形成されない。以下、民生用のMPEGフォーマットで配列されたトラックを、民生用のメイントラックと称する。

【0043】図4は、図3に示されたメインセクタ構造の詳細を示す図である。同図に示されるように、メインセクタは、141個のシンクブロックで構成され、各シンクブロックの長さは、878ビットとされる。

【0044】最初の123個のシンクブロックは、16ビットのシンク、24ビットのID、8ビットのヘッダ、750ビットのデータ、および、80ビットのパリティC1で構成される。シンクは、シンク発生部7により発生される。IDは、誤り訂正符号ID付加部5により付加される。ヘッダは、データが、映像データ、音声データ、AUXデータ、サーチ用の映像データなどのいずれであるのかを識別する識別情報を含んでいる。このヘッダのデータは、端子3から、コントローラ14よりシステムデ

ータの一種として供給される。

【0045】パリティC1は、各シンクブロックごとに、ID、ヘッダおよび、データから、誤り符号ID付加部5において計算され、付加される。

【0046】141個のシンクブロックのうち、最後の18個のシンクブロックは、シンク、ID、パリティC2、および、パリティC1で構成される。パリティC2は、図4において、ヘッダまたはデータを、それぞれ縦方向に計算することで求められる。この演算は、誤り符

号ID付加部5において行われる。

【0047】このメインセクタの実質的な最大記録データレートは、回転ヘッド13の回転が6.0Hzに同期している場合、次式(1)に示される計算式より、27.675MHzとなる。このビットレートは、MP@HLまたはMP@H-14によるHD映像データ、音声圧縮データ、AUXデータ、または、サーチ用の映像データを記録するのに十分なレートである。

$$\begin{aligned} \text{最大記録データレート} &= (1 \text{ シンク内データ}) \times (1 \text{ トラック当りの記録データのシンクブロック数}) \times (1 \text{ フレーム内トラック数}) \times (\text{フレーム周波数}) \\ &= 750 \text{ ビット} \times 123 \text{ シンクブロック} \times 10 \text{ トラック} \times 30 \text{ Hz} \\ &= 27.675 \text{ MHz} \end{aligned} \quad \text{--- (1)}$$

【0048】また、メインセクタのトラック内総データ量は、次式(2)に示される計算式より、ほぼ123816ビットとなり、24-25変換後の総データ量は、

$$\begin{aligned} \text{トラック内総データ量} &= (1 \text{ シンク内総データ長}) \times (1 \text{ トラック当り総シンクブロック数}) \\ &= 878 \text{ ビット} \times 141 \text{ シンクブロック} \\ &= 123816 \text{ ビット} \end{aligned} \quad \text{--- (2)}$$

$$\begin{aligned} 24-25 \text{ 変換後総データ量} &= (\text{トラック内総データ量}) \times (25/24) \\ &= 123816 \times (25/24) \\ &= 128975 \text{ ビット} \end{aligned} \quad \text{--- (3)}$$

【0049】図5は、サブコードセクタの構造を示す図である。同図に示されるように、1トラックのサブコードセクタは、10個のサブコードシンクブロックで構成され、1サブコードシンクブロックは、16ビットのシンク、24ビットのID、40ビットのサブコードデータ、および、40ビットのパリティで構成される。

【0050】シンクは、シンクITI発生部7により付加され、IDは、誤り符号ID付加部5により付加される。サ

ブコードデータは、端子3を介して、コントローラ14から供給されるものであり、例えば、トラック番号やタイムコード番号などを含んでいる。パリティは、誤り符号ID付加部5により付加される。

【0051】サブコードセクタのトラック内総データ量は、次式(4)に示される計算式より、1200ビットとなり、24-25変換後の総データ量は、次式(5)に示される計算式より、1250ビットとなる。

$$\begin{aligned} \text{トラック内総データ量} &= (1 \text{ シンク内総データ長}) \times (1 \text{ トラック当り総シンクブロック数}) \\ &= 120 \text{ ビット} \times 10 \text{ シンクブロック} \\ &= 1200 \text{ ビット} \end{aligned} \quad \text{--- (4)}$$

$$\begin{aligned} 24-25 \text{ 変換後総データ量} &= (\text{トラック内総データ量}) \times (25/24) \\ &= 1200 \times (25/24) \\ &= 1250 \text{ ビット} \end{aligned} \quad \text{--- (5)}$$

【0052】図6は、業務用のMPEGフォーマットで、磁気テープ21に形成される10μm幅の1トラックの構成例を表わしている。同図に示す数字のビット数は、24-25変換された後の数値を表わしている。

【0053】1トラックの長さは、60×1000/1001Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、13497.5ビットとされ、60Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、134850ビットとされる。

【0054】この1トラックには、回転ヘッド13のトレース方向(図2において、左から右方向)に、サーボ

制御信号としてのITIセクタ、および、メインセクタがそれぞれ配置され、ITIセクタとメインセクタの間に、ギャップG1が形成される。

【0055】ITIセクタは、3550ビットの長さとなる。その先頭には、1400ビットのプリアンプルが配置され、その次には、1920ビット分の長さのSSAとTIAが設けられている。TIAの次には、230ビットのポストアンプルが配置されている。

【0056】ギャップG1の長さは、625ビット分とされている。

【0057】ギャップG1の次には、129600ビッ

トの長さのメインセクタが配置されている。メインセクタには、映像データ(VIDEO)のみが記録されている。このメインセクタの構造は、後述する。

【0058】なお、業務用のMPEGフォーマットにおいては、磁気テープ21上における編集機能を目的としたフォーマットであるため、1トラック内の各セクタ間にはギャップが形成される。以下、図6に示されるように配列されたトラックを、業務用のメイントラックと称する。

【0059】図7は、図6に示されたメインセクタ構造の詳細を示す図である。同図に示されるように、メインセクタは、141個のシンクブロックで構成され、各シンクブロックの長さは、882ビットとされる。

【0060】最初の123個のシンクブロックは、16ビットのシンク、24ビットのID、8ビットのヘッダ、754ビットのデータ、および、80ビットのパリティ

最大記録データレート = (1シンク内データ) × (1トラック当りの記録データのシンクブロック数) × (1フレーム内トラック数) × (フレーム周波数)

$$= 754 \text{ ビット} \times 123 \text{ シンクブロック} \times 10 \text{ トラック} \times 30 \text{ Hz}$$

$$= 27.823 \text{ MHz} \quad \dots (6)$$

【0063】また、メインセクタのトラック内総データ量は、124416ビットとなる。これは、民生用と異なり、映像データのみは、次式(7)に示される計算式より、ほぼ124416ビットを配置するため、さらに、高品質の映像記録が可能になり、24-25変換後の総データ量は、129600ビットとなる。

次式(8)に示される計算式より、ほぼ129600ビット

トラック内総データ量 = (1シンク内総データ長) × (1トラック当り総シンクブロック数)

$$= 882 \text{ ビット} \times 141 \text{ シンクブロック} \quad \dots (7)$$

$$= 124416 \text{ ビット}$$

24-25変換後総データ量 = (トラック内総データ量) × (25/24)

$$= 124416 \times (25/24) \quad \dots (8)$$

$$= 129600 \text{ ビット}$$

【0064】図8は、業務用のMPEGフォーマットで、磁気テープ21に形成される8μm幅の1トラックの構成例を表わしている。同図に示す数字のビット数は、24-25変換された後の数値を表わしている。

【0065】1トラックの長さは、60 × 1000 / 1001 Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、134975ビットとされ、60 Hzの周波数に同期して回転ヘッド13が回転される場合、134850ビットとされる。

【0066】この1トラックには、回転ヘッド13のトレース方向(図2において、左から右方向)に、サーボ制御信号としてのITIセクタ、オーディオセクタ、SV(Servo)セクタ、AUX/サーチ用のセクタ、および、サブコードセクタがそれぞれ配置され、ITIセクタとオーディオセクタの間には、ギャップG1が形成され、オーディオセクタとSVセクタの間にはギャップG2が形成され、SVセクタとAUX/サーチ用のセクタの間には、ギャップG3が形成され、AUX/サーチ用のセクタとサブコ

C1で構成される。シンクは、シンク発生部7により発生される。IDは、誤り訂正符号ID付加部5により付加される。ヘッダは、データが、映像データであるのかを識別する識別情報を含んでいる。このヘッダのデータは、端子3から、コントローラ14よりシステムデータの一種として供給される。

【0061】141個のシンクブロックのうち、最後の18個のシンクブロックは、シンク、ID、パリティC2、および、パリティC1で構成される。

【0062】このメインセクタの実質的な最大記録データレートは、回転ヘッド13の回転が60Hzに同期している場合、次式(6)に示される計算式より、ほぼ27.823MHzとなる。このビットレートは、MP@HLまたはMP@H-14によるHD映像データ、または、AUXデータを記録するのに十分なレートである。

最大記録データレート = (1シンク内データ) × (1トラック当りの記録データのシンクブロック数) × (1フレーム内トラック数) × (フレーム周波数)

$$= 754 \text{ ビット} \times 123 \text{ シンクブロック} \times 10 \text{ トラック} \times 30 \text{ Hz}$$

$$= 27.823 \text{ MHz} \quad \dots (6)$$

【0063】また、メインセクタのトラック内総データ量は、124416ビットとなる。これは、民生用と異なり、映像データのみは、次式(7)に示される計算式より、ほぼ124416ビットを配置するため、さらに、高品質の映像記録が可能になり、24-25変換後の総データ量は、129600ビットとなる。

次式(8)に示される計算式より、ほぼ129600ビット

トラック内総データ量 = (1シンク内総データ長) × (1トラック当り総シンクブロック数)

$$= 882 \text{ ビット} \times 141 \text{ シンクブロック} \quad \dots (7)$$

$$= 124416 \text{ ビット}$$

24-25変換後総データ量 = (トラック内総データ量) × (25/24)

$$= 124416 \times (25/24) \quad \dots (8)$$

$$= 129600 \text{ ビット}$$

ードセクタの間には、ギャップG4が形成される。

【0067】ITIセクタは、3550ビットの長さとなれ、その先頭には、1400ビットのプリアンプルが配置され、その次には、1920ビット分の長さのSSAとTIAが設けられている。TIAの次には、230ビットのポストアンプルが配置されている。

【0068】ギャップG1の長さは、625ビット分とされている。

【0069】オーディオセクタは、3750ビットの長さとなれ、その先頭の500ビットと最後の900ビットは、それぞれ、プリアンプルまたはポストアンプルとされ、その間の2350ビットがデータ(オーディオデータ)とされる。ここでのオーディオデータは、1フレームの映像データに同期するように配置される。これにより、MPEG記録時の映像および音声の時間差が生じないようにすることを目的とし、編集時の精度を向上させる。

【0070】ギャップG2の長さは、625ビット分と

されている。

【0071】SVセクタは、700ビットの長さとなる。SVセクタは、サーボ用制御信号としてトラック内セクタ付近に配置される。これは、トラックの直線性、テープスキュー、またはヘッドの配置を含むメカ精度等のばらつきに対して、編集精度を向上させることを目的とする。なお、このSVデータの構造は、DVフォーマットに準拠するものとする。

【0072】ギャップG3の長さは、625ビット分とされている。

【0073】AUX/サーチ用のセクタは、120825ビットの長さとなる。その先頭の700ビットと最後の700ビットは、それぞれ、プリアンプルまたはポストアンプルとされ、その間の119425ビットがデータ（AUXデータまたはサーチ用の映像データ）とされる。

【0074】ギャップG4の長さは、625ビット分とされている。

【0075】サブコードセクタは、回転ヘッドが60×1000×100.1Hzの周波数で回転される場合、3650ビットとされ、60Hzで回転される場合、3525ビットとされる。そのうちの先頭の1200ビットは、プリアンプルとされ、最後の1200ビット（回転ヘッドが60×1000×100.1Hzの周波数で回転される場合）、または1075ビット（回転ヘッドが60Hzの周波数で回転される場合）とされ、その間の1250ビットがデータ（サブコードデータ）とされる。

【0076】なお、編集点基準信号となるITIデータは、業務用のメイントラックのITIデータと同じである。以下、図8に示されるように配列されたトラックを、業務用のサブトラックと称する。

【0077】このように、業務用のサブトラックでは、各セクタ間にギャップが配置されているため、DVCAMフォーマットと同様に、各インサート（映像、音声、タイムコード、または、その他付加データ）やアッセンブル編集が可能になる。

【0078】次に、図1の装置の動作について説明する。HD映像信号は、サーチ用の映像データ（サムネイルの映像データ）とともに、映像データ圧縮部1に入力され、例えば、MP@HLまたはMP@H-14方式で圧縮される。音声信号は、音声データ圧縮部2に入力され、圧縮される。端子3には、コントローラ14から、サブコードデータ、AUXデータ、ヘッダなどのシステムデータが供給される。

【0079】スイッチ4は、コントローラ14により制御され、映像データ圧縮部1より出力された映像データ（サーチ用の映像データを含む）、音声データ圧縮部2より出力された音声データ、あるいは、端子3から入力されたシステムデータを、所定のタイミングで取り込み、誤り符号ID付加部5に出力することで、これらのデータを合成する。

【0080】誤り符号ID付加部5は、図4のメインセクタ（民生用のMPEGフォーマットを用いた場合）、または、図7のメインセクタ（業務用のMPEGフォーマットを用いた場合）に示す各シンクブロックに、24ビットのIDを付加する。また、図4または図7に示すパリティC1を、各シンクブロック毎に計算し、付加するとともに、141シンクブロックのうちの最後の18シンクブロックには、ヘッダとメインデータの代わりに、パリティC2を付加する。

【0081】また、誤り符号ID付加部5は、図5に示すように、サブコードデータの各サブコードシンクブロック毎に、24ビットのIDを付加するとともに、40ビットのパリティを演算し、付加する。

【0082】誤り符号ID付加部5は、さらに、16トラック分のデータを保持し、それらのデータを16トラックの間でインタリーブする。

【0083】24-25変換部6は、誤り符号ID付加部5より供給された24ビット単位のデータを、25ビット単位のデータに変換する。

【0084】シンクITI発生部7は、図4または図7に示すように、メインセクタの各シンクブロックに、16ビットのシンクを付加する。また、シンクITI発生部7は、図5に示すように、サブコードセクタの各サブコードシンクブロックに、16ビットのシンクを付加する。さらに、シンクITI発生部7は、ポストアンプルのランパターンを発生するとともに、ITIセクタのデータを発生する。

【0085】これらのデータの付加（合成）は、より具体的には、コントローラ14が、スイッチ8を切り換え、シンクITI発生部7から出力されたデータと、24-25変換部6が出力したデータを、適宜選択して変調部9に供給するようにすることで行われる。

【0086】変調部9は、入力されたデータを、ランダム化するとともに、DVフォーマットに対応する方式で変調し、パラレルシリアル変換部10に出力する。パラレルシリアル変換部10は、入力されたデータをパラレルデータからシリアルデータに変換し、増幅器11を介して、回転ヘッド13に供給する。回転ヘッド13は、入力されたデータを磁気テープ21に記録する。

【0087】次に、HD MPEGフォーマットと、DVフォーマットまたはDVCAMフォーマットの互換再生について、以下に説明する。

【0088】図9は、民生用DVTRおよび業務用DVTRの回転ヘッド13の構成例を示している。

【0089】図9（A）は、民生用DVTRの回転ヘッド13の構成例を示している。同図に示されるように、回転ドラム12には、デジタル記録ヘッドとしての回転ヘッド13-1（偶数（Even）トラック用）と、回転ヘッド13-2（奇数（Odd）トラック用）が備えられている。なお、1組の回転ヘッド13-1、13-2は、磁

気テープ 2 1 上を同時に平行してトレースするため、それぞれ近傍に配置されている。すなわち、民生用 DVTR の回転ドラム 1 2 には、1 組の回転ヘッド 1 3-1、1 3-2 が搭載されている。

【0090】この構成例では、メインデータが、偶数トラックと奇数トラックに同時に記録される。

【0091】図 9 (B) は、業務用 DVTR の回転ヘッド 1 3 の構成例を示している。同図に示されるように、回転ドラム 1 2 には、デジタル磁気ヘッドとしての回転ヘッド 1 3-1 乃至 1 3-4 が備えられている。なお、回転ヘッド 1 3-1 と 1 3-3、並びに、回転ヘッド 1 3-2 と 1 3-4 は、180 度離間した対向位置に、同じ極性のアジマスヘッドがそれぞれ取り付けられている。また、磁気テープ 2 1 上を同時に平行してトレースするため、1 組の回転ヘッド 1 3-1、1 3-2 は、それぞれ近傍に配置されており、他の 1 組の回転ヘッド 1 3-3、1 3-4 も、それぞれ近傍に配置されている。すなわち、業務用 DVTR の回転ドラム 1 2 には、2 組の回転ヘッド 1 3-1、1 3-2 と 1 3-3、1 3-4 が搭載されている。

【0092】また、業務用 DVTR の回転ドラム 1 2 に搭載されている回転ヘッド 1 3 の特徴は、DVCAM フォーマットの互換再生、または、DV フォーマット (LP (Long Playing) モード時) のノントラッキング再生、並びに、DV フォーマット、DVCAM フォーマット、または HD MPEG フォーマットの特殊再生を目的としている。そのため、回転ドラム 1 2 には、回転ヘッド 1 3-1、1 3-2、および、回転ヘッド 1 3-3、1 3-4 から 90 度シフトした位置に、EXTRA ヘッド 1 3-5、1 3-6 が、それぞれ配置される。これにより、互換再生や特殊再生が可能となる。

【0093】この構成例では、メインデータが偶数トラックに記録され、同時に、サブデータが奇数トラックに記録される。

【0094】なお、偶数トラックと奇数トラックの各ヘッドのアジマス角は、DV フォーマットに準拠するものとする。

【0095】図 10 は、図 9 に示された回転ヘッド 1 3 により記録される各フォーマットの記録仕様を示す図である。

【0096】図 10 (A) は、HD MPEG フォーマットの記録仕様を示している。同図に示されるように、回転ヘッド 1 3 は、10 μ m 幅のトラックピッチを形成する場合、14 μ m のヘッド幅で記録し、8 μ m 幅のトラックピッチを形成する場合、12 μ m のヘッド幅で記録する。すなわち、偶数トラック側の記録パターンに対して、奇数トラック側の回転ヘッド 1 3-2 または 1 3-4 (業務用の MPEG フォーマットの場合) を 4 μ m 分オーバーライトさせて、10 μ m のトラックピッチを形成する。一方、奇数トラック側の記録パターンに対して、偶

数トラック側の回転ヘッド 1 3-1 または 1 3-3 (業務用の MPEG フォーマットの場合) を 4 μ m 分オーバーライトさせて、8 μ m のトラックピッチを形成する。

【0097】なお、これらのオーバーライト量については、ヘッドの相対高さにより任意に設定することができる。

【0098】図 10 (B) は、DV フォーマット (SP (Standard Playing) モード時) の記録仕様を示している。同図に示されるように、回転ヘッド 1 3 は、10 μ m 幅の偶数トラックピッチを形成する場合、14 μ m のヘッド幅で記録し、10 μ m 幅の奇数トラックピッチを形成する場合、12 μ m のヘッド幅で記録する。すなわち、偶数トラック側の記録パターンに対して、奇数トラック側のヘッドを 4 μ m 分オーバーライトさせて、10 μ m のトラックピッチを形成する。一方、奇数トラック側の記録パターンに対して、偶数トラック側のヘッドを 2 μ m 分オーバーライトさせて、10 μ m のトラックピッチを形成する。

【0099】図 11 は、上述したようにして記録された HD MPEG フォーマットおよび DV フォーマットを互換再生する場合のドラム回転速度とテープ速度を示している。

【0100】同図に示されるように、民生用の HD MPEG フォーマットのデータを再生する場合、ドラム回転数が 7200 r.p.m. (1 分間に 7200 回転)、テープ速度が 15.1065 mm になるように制御され、業務用の HD MPEG フォーマットのデータを再生する場合、ドラム回転数が 7200 r.p.m.、テープ速度が 15.1065 mm になるように制御され、DV フォーマットのデータを SP モードで再生する場合、ドラム回転数が 9000 r.p.m.、テープ速度が 18.831 mm になるように制御される。

【0101】すなわち、HD MPEG フォーマットを基準にした場合、DV フォーマットの SP モードの再生速度を 1.25 倍にすることで互換再生が対応可能となる。また、図 9 に示されたような回転ヘッド 1 3 の構成と仕様の条件下で、DV フォーマットの SP モードも記録可能である。

【0102】図 12 は、各フォーマットでの記録可能時間を示している。

【0103】図 12 (A) は、DV 仕様のテープ (蒸着 ME (Metal Evaporated) テープ) に記録する場合の各フォーマットにおける記録時間を示している。同図に示されるように、30 分仕様の DV テープにおいて、民生用の HD MPEG フォーマットの場合、37.5 分の記録が可能であり、業務用の HD MPEG フォーマットの場合、16.7 分の記録が可能であり、SP モードの DV フォーマットの場合、30 分の記録が可能である。60 分仕様の DV テープにおいて、民生用の HD MPEG フォーマットの場合、75 分の記録が可能であり、業務用の HD MPEG フォーマットの場合、33.3 分の記録が可能であり、SP モードの DV フォーマットの場合、60 分の記録が可能である。

【0104】図12(B)は、DVCAM仕様のテープ(蒸着MEテープ)に記録する場合の各フォーマットにおける記録時間を示している。同図に示されるように、4.0分仕様のDVCAMテープにおいて、民生用のHD MPEGフォーマットの場合、66.7分の記録が可能であり、業務用のHD MPEGフォーマットの場合、33.3分の記録が可能であり、SPモードのDVフォーマットの場合、60分の記録が可能である。184分仕様のDVCAMテープにおいて、民生用のHD MPEGフォーマットの場合、306.7分の記録が可能であり、業務用のHD MPEGフォーマットの場合、153.3分の記録が可能であり、SPモードのDVフォーマットの場合、27.6分の記録が可能である。

【0105】このように、HD MPEGフォーマットを用いてDVフォーマットに準拠したビットレートで記録することが可能になる。

【0106】以上のように、民生用のMPEGフォーマットの場合、映像データ、音声データ、付加データ(AUXデータ)、またはサーチ用の映像データを、ギャップを配置しない状態で連続的に記録するようにしたので、映像系のビットレートを高め、高品位な映像を磁気テープ上に記録することが可能となる。

【0107】一方、業務用のMPEGフォーマットの場合、10 μ m幅のトラックに映像データのみを記録し、8 μ m幅のトラックに音声データ、付加データ(AUXデータ)、またはサーチ用の映像データを、ギャップを配置しテープ編集を可能にした状態で記録するようにしたので、映像系のビットレートを高め、かつ、各インサートやアッセンブル編集を可能にする。

【0108】上述した一連の処理は、ハードウェアにより実行させることもできるが、ソフトウェアにより実行させることもできる。一連の処理をソフトウェアにより実行させる場合には、そのソフトウェアを構成するプログラムが、専用のハードウェアに組み込まれているコンピュータ、または、各種のプログラムをインストールすることで、各種の機能を実行することが可能な、例えば汎用のパーソナルコンピュータなどに、記録媒体からインストールされる。

【0109】この記録媒体は、図1に示されるように、磁気テープ記録装置本体とは別に、ユーザにプログラムを提供するために配布される、プログラムが記録されている磁気ディスク31(フロッピディスクを含む)、光ディスク32(CD-ROM(Compact Disk-Read Only Memory)、DVD(Digital Versatile Disk)を含む)、光磁気ディスク33(MD(Mini-Disk)を含む)、もしくは半導体メモリ34などよりなるパッケージメディアにより構成されるだけでなく、装置本体に予め組み込まれた状態でユーザに提供される、プログラムが記録されているROMや、ハードディスクなどで構成される。

【0110】なお、本明細書において、記録媒体に記録されるプログラムを記述するステップは、記載された順

序に沿って時系列的に行われる処理はもちろん、必ずしも時系列的に処理されなくとも、並列的あるいは個別に実行される処理をも含むものである。

【0111】

【発明の効果】以上のように、本発明の第1の磁気テープ記録装置、第1の磁気テープ記録方法、並びに、第1の記録媒体に記録されているプログラムによれば、第1乃至第3のグループデータを連続するように合成し、磁気テープに記録するようにしたので、高品位のデータを、民生用のMPEGフォーマットで磁気テープ上に記録することが可能となる。

【0112】また、本発明の第2の磁気テープ記録装置、第2の磁気テープ記録方法、並びに、第2の記録媒体に記録されているプログラムによれば、第1および第2のグループデータを連続するように合成し、磁気テープ上の第1のトラックに記録するとともに、第3乃至第6のグループデータを合成し、磁気テープ上の第2のトラックに記録するようにしたので、高品位のデータを、業務用のMPEGフォーマットで磁気テープ上に記録することが可能となる。

【0113】また、本発明の第1の磁気テープのフォーマットによれば、第1乃至第3のグループデータを連続して記録するようにしたので、高品位のデータを、民生用の磁気テープ上に記録することが可能となる。

【0114】さらにまた、本発明の第2の磁気テープのフォーマットによれば、第1および第2のグループデータを連続して第1のトラックに記録するとともに、第3乃至第6のグループデータを離間して第2のトラックに記録するようにしたので、高品位のデータを、業務用の磁気テープ上に記録することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用した磁気テープ記録装置の構成例を示すブロック図である。

【図2】磁気テープに形成されるトラックのMPEGフォーマットを説明する図である。

【図3】民生用のメイントラックを説明する図である。

【図4】図3のメインセクタの構造を説明する図である。

【図5】図3のサブコードセクタの構造を説明する図である。

【図6】業務用のメイントラックを説明する図である。

【図7】図6のメインセクタの構造を説明する図である。

【図8】業務用のサブトラックを説明する図である。

【図9】回転ヘッドの構成例を示す図である。

【図10】各フォーマットの記録仕様を説明する図である。

【図11】各フォーマットのドラム回転速度とテープ速度を説明する図である。

【図12】各フォーマットでの記録可能時間を説明する

21

22

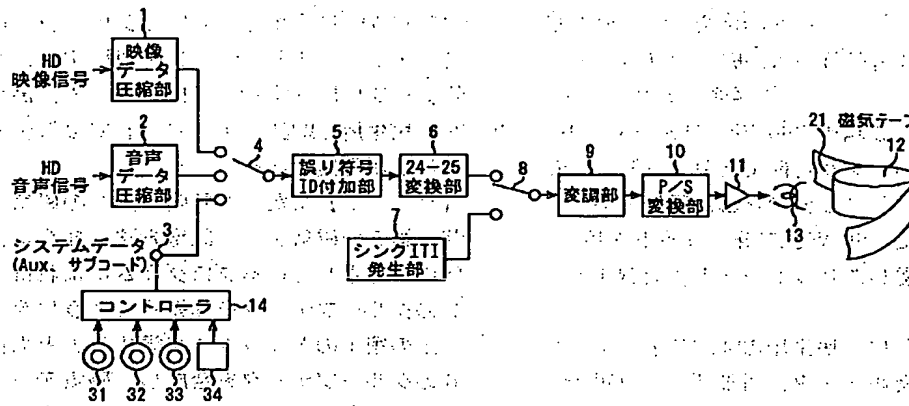
図である。

【符号の説明】

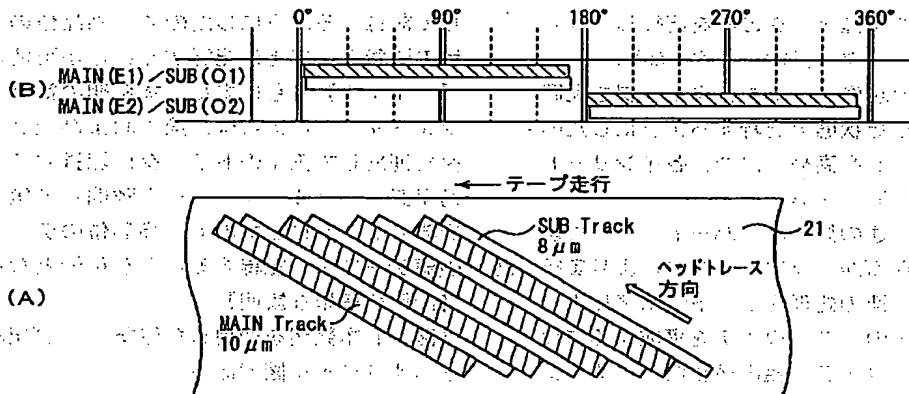
1 映像データ圧縮部、 2 音声データ圧縮部、 5

誤り符号ID付加部、 6 24-25変換部、 7 シンクID発生部、 9 変調部、 12 回転ドラム、 13 3-1乃至13-6 磁気ヘッド、 21 磁気テープ

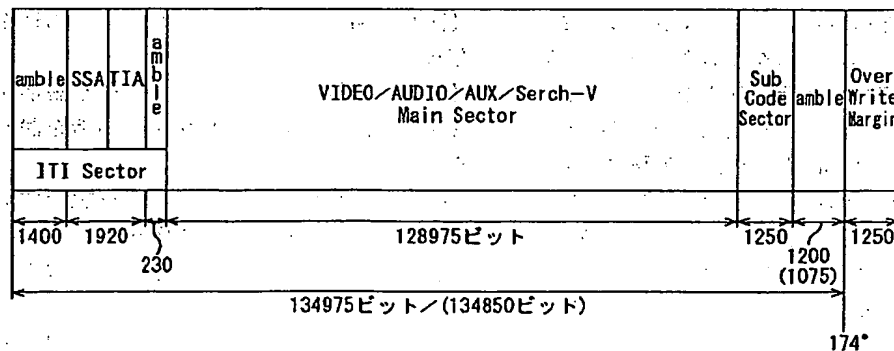
【図1】



【図2】

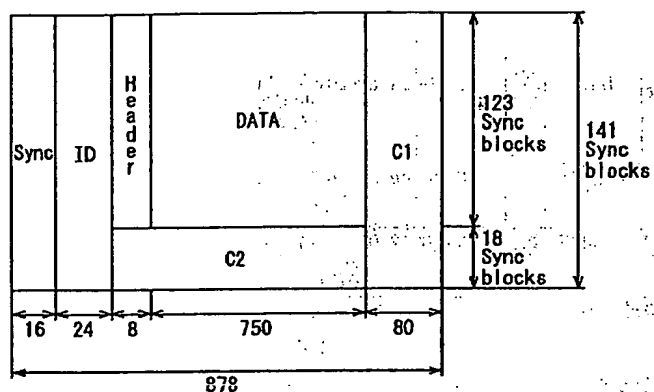


【図3】

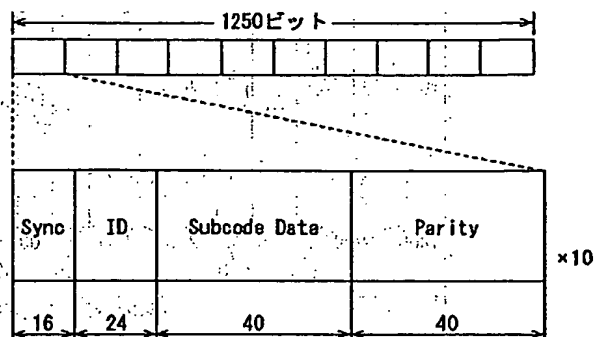


民生用のメイントラック

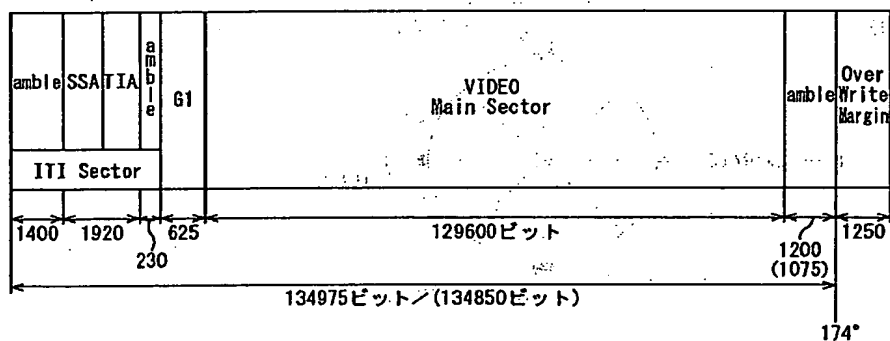
【図 4】



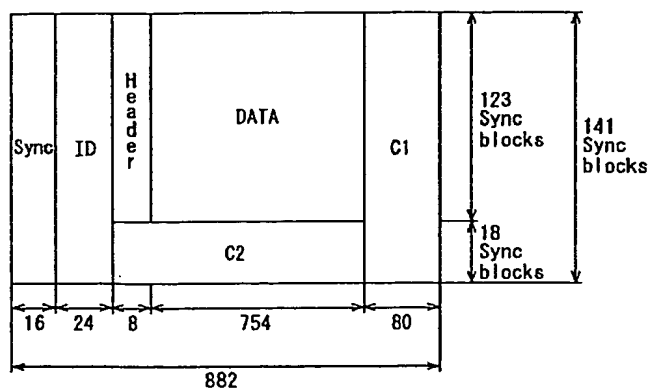
【図 5】



【図 6】



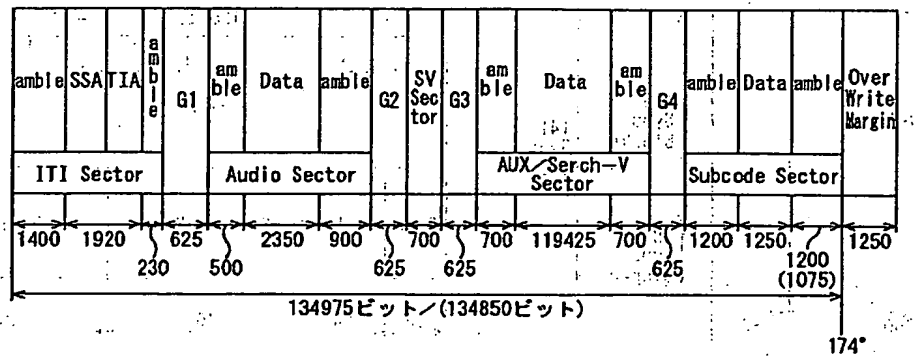
【図 7】



【図 11】

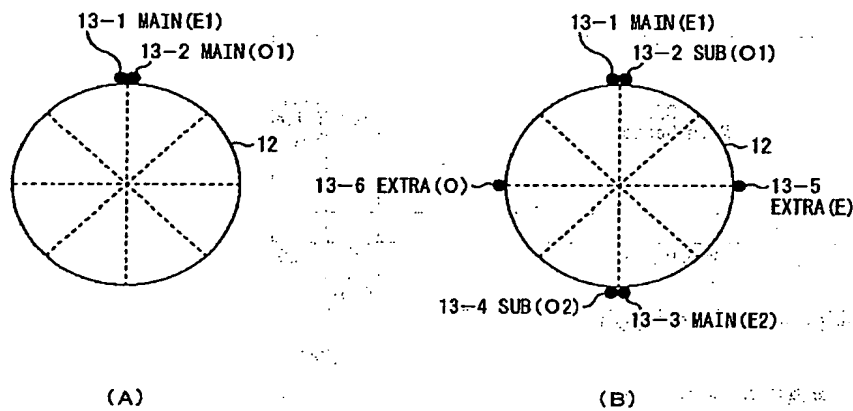
	ドラム回転数	テープ速度
HD MPEG(民生用)	7200rpm	15.065mm
HD MPEG(業務用)	7200rpm	15.065mm
DV(SPモード)	9000rpm	18.831mm

【図 8】



業務用のサブトラック

【図 9】



(A)

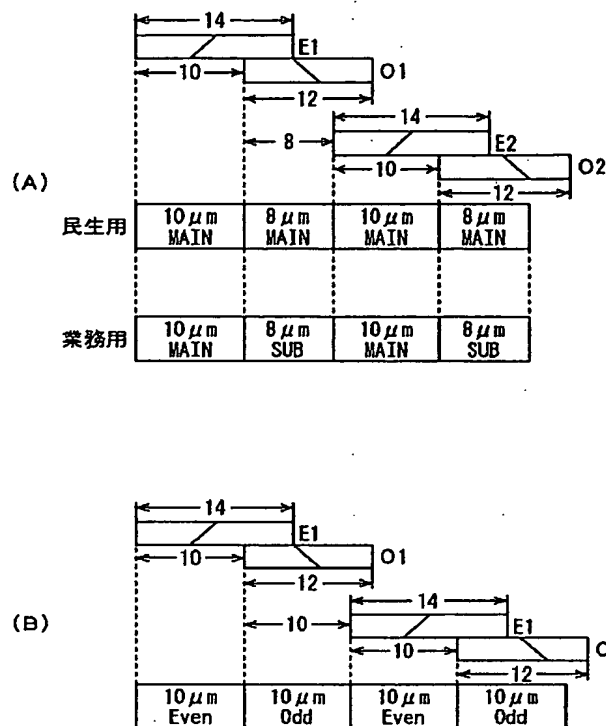
(B)

【図 12】

	30分仕様	60分仕様
(A) HD MPEG (民生用)	37.5分	75分
HD MPEG (業務用)	16.7分	33.3分
DV (SPモード)	30分	60分

	40分仕様	184分仕様
(B) HD MPEG (民生用)	66.7分	306.7分
HD MPEG (業務用)	33.3分	153.3分
DV (SPモード)	60分	276分

【図 10】



フロントページの続き

Fターム(参考) 5C018 BA02 CA02 CA05 CA06 FB04
 FB05
 5C053 FA17 FA22 GB01 GB06 GB21
 GB37 JA02 JA03
 5D044 AB05 AB07 BC01 CC03 DE02
 DE03 DE15 DE52 DE55 EF05
 GK08